

## 令和元年度 第1回図書館協議会議事録

日時：令和元年7月9日（火）14：30～16：00

場所：長井市立図書館 3階視聴覚室

- 委員：田中美壽委員長、鈴木道子副委員長、佐々木友明委員、後藤浩委員、禪純委員、勝見真喜子委員、大沼久委員、平みわ委員、多田知子委員
- 長井市立図書館：倉持館長、山口副館長
- 事務局：平田教育長、今野文化生涯学習課補佐、佐原

事務局進行で定刻に開会。開会に先立ち、今年度から新たに委員となられた9名の方へ平田教育長より委嘱状交付を行った。

### 教育長あいさつ

「この度は、図書館協議会委員をお引き受けいただき有難うございます。この協議会は、長井市立図書館の運営等について様々な立場からご意見をいただきながら、より良い図書館運営を行うために開催するものです。

今回も事前に資料をいただき確認しましたが、倉持館長さんをはじめ、指定管理者のデーシーエスさんが頑張っておられる姿がよく分かります。毎年新しい企画が実施されていることが実績報告としても出されており、人口減少や少子化、児童生徒が少なくなっている背景がありながらも、登録率が36.6%と、ここ数年で最も高くなっています。また、市民一人当たりの貸出冊数が3.9冊と、これもわずかながら前年度を上回っています。図書館職員の皆様の努力が実っていると感じています。

加えて、教育委員会が子育て推進課と連携して取り組んでいる、読み聞かせにどう取り組むかを示した“きかせわっさ”という絵本の中に紹介されている、是非小さい子に読み聞かせたい本については、全て図書館で揃えていただいております、これはすごいことだと感じています。

また、今日ご覧になった方もいらっしゃると思いますが、来年のオリンピック・パラリンピックに向けて長井市がホストタウンになっているタンザニア共和国から家族連れで長井にいらっしやったバハティさんが、つつじ公園で子ども達に母国の遊びを披露したという記事が新聞に載っておりました。そんな中、今日図書館に来たところ、タンザニア・アフリカ関連の本が特集されていて、驚きました。これは教委からお願いしたことではなく、オリンピック・パラリンピックへの機運を盛り上げていこうという目的のもと、図書館の中で考えていただいた企画です。教育委員会としては非常に有り難く感じています。毎年新しい企画をどうやって考えているのか、毎回協議会でも話題に上りますが、是非後で聞いてみていただきたいと思います。

新しい企画や例年開催している企画、一番基本となる本の貸し出しであったり、図書館

に人を呼び込む手立てであったり、委員の皆様からご意見を頂戴できればと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

なお、最後に私事ではありますが、この挨拶が教育長としての最後の仕事になります。今日で丸三年の任期を終えて、明日からは元長井南中学校長の土屋正人先生が後任として着任することになりますので、これまで同様どうかよろしくお願いいたします。」

今期1回目の協議会ということで、委員の皆様から一人ひとり自己紹介をいただいた。

また、委員長、副委員長の選出について、今期は10名中9名が新しく委員になられたことから、事務局案として委員長に田中美壽委員、副委員長に鈴木道子委員を提案し、満場一致で承認された。

#### 委員長あいさつ

「あらためまして、田中美壽でございます。よろしくお願いいたします。図書館協議会委員とは、教育委員会から委嘱されて、図書館長の諮問に答えるという役目を持った組織です。利用している方々の利便性を考え、熱意溢れる図書館職員の方々に、私たちが色々な立場からより良い図書館となるよう率直に意見を述べていきたいと思っておりますので、議事の進行にご協力をお願いいたします。」

#### 協 議

##### (1) 平成30年度事業報告等について

- ・内容は資料のとおり

館長及び副館長より平成30年度事業報告について説明の後、質疑に入る。

**委 員** 「図書だよりはどの範囲で配布しているのか。」

**副館長** 「昨年100号に達したということで、館内で記念企画を実施した。今は113号が最新号になっている。館内、市役所、街なか図書館の長井駅と小桜館に配置している他、各小中学校には文書棚を通じてお配りしている。図書館ホームページにも掲載している。」

**委 員** 「学校に配布するのは一人1枚ではなくて、掲示するくらいの枚数なのか。」

**副館長** 「学校に配布しているのは各校1枚のみ。」

委員 「中学生はこういうものを一生懸命見たりするので、一人1枚もらえらるともって図書館に興味を持つ機会が増えるのかなと思う。」

副館長 「クラスに1枚だとどうか。検討してみる。」

委員 「いなほ号については、車内に子ども達がいっぱいになるほど毎回人気で、大変いいなあと感じている。昨年度行った運行業務の体制一新とはどういったものか。」

館長 「一昨年までは男性職員2名で運行していたが、昨年度からは司書資格者を主任に据え、やる気のある若い女性職員を新たに採用し、運転業務のみをシルバー人材センターに委託し、無理なく予算をかけすぎることなく業務改善を行った。車内の装飾や本の配置なども工夫し、いなほ号の中が大変明るくなったと感じている。」

委員 「関連してだが、各学校に図書室はあるのか。」

委員長 「ある。その他にいなほ号が来校している。」

委員 「街なか図書館はどういった貸出システムとしているのか。」

副館長 「まごころの本以外は、市民の方から寄付いただいた、バーコードの無い図書館の蔵書以外の本。貸出ノートをぶらさげて、借りる際は貸出日と氏名を、返す際は返却日を書いていただいている。」

委員 「長井駅の分については撤去したとのことだが、今後の設置についてはこれから検討することになるのか。」

副館長 「新しい駅に置ければいいが、完成するまで数年あるので、それまで他の場所を探すのか検討していきたい。小桜館はそのまま設置する予定。」

委員 「入れ替えはしているのか。」

副館長 「新しく寄付をいただければ古い本と取り替えたり、小桜館の本と取り替えたりしている。」

委員 「先ほど教育長もおっしゃっていたが、企画は職員の方々のアイデアなのか。」

**副館長** 「そのとおり。司書同士なので、お茶のみ話をしながらいいアイデアを考え付くこともある。」

**委員** 「昨年度の事業報告を見ると、新規事業を沢山実施されていて、あらためて感心している。昨年度の事業は、今年度にどの程度残るのか。」

**副館長** 「昨年度は図書日より100号を記念して新規事業を沢山行った。今年はそこまで出来ないと思う。クリスマスから年末年始の企画は忙しく、職員の負担にはなるが、利用者には大変好評だったので、上手くやりくりして進められればと思っている。」

**委員** 「読書感想文コンクールは、1・2年生の生徒に夏休みの宿題として課していて、例年400点ほど作品が集まる。先ほど館長から、応募数の減少や質の低下が問題になっていると説明があった。内容の理解は“書く”ことによって深まると思うが、“書く”という行為自体が本校の生徒を見ていると大変厳しいと感じている。応募数を増やすことについては我々に協力できると思うが解決につながるだろうか。」

**副館長** 「沢山応募していただけるのは大変有り難い。」

**委員** 「質の確保についても引き続き指導していきたい。」

**委員** 「中学生がコンクールに応募する際に、原稿用紙の枚数を基準に選ぶ子もいる。本を読むこと自体は好きだが、感想文という苦手になってしまう子もいる。コンクールの枚数を応募しやすいように調整していただくことは可能か。また、感想文を書くことのねらいをどこに置くかということが大事だと思う。読書の習慣化を図りたいのであれば、感想文でなくてもいいのでは。本の紹介カードや物語をつくることをコンクールにしてみたり。書きたいと思う内容で募集してみるのもひとつの手かなと。読書感想文コンクールの内容や条件を書きやすいものに見直していく必要があると思う。」

**副館長** 「現在、小学生は3～4枚、中学生は4～5枚で募集している。一度読書エッセイを募集してみたことがあるが、全く集まらなかった。読んでいる立場としては面白いと思ったが。」

**委員長** 「市として募集しているコンクールだという点をご理解いただき、指導していただく立場の方々にとっては大変だとは思いますが、協力していただければ有難い。高校生の作品は応募数は少ないがレベルが高いと思う。」

**委員** 「感想文コンクールへ応募しなければいけないという強制感が、生徒の本離れの原因だと考えている職員もいることは確か。ただ、こういう時代だからこそ、余計書かないとダメだと思っている。書いて初めて自分の考え方が深化するという面もある。」

**委員** 「文章力の弱さは今の若い方を見ていて感じる。新任の職員を何人も指導してきたが、連絡帳を書く文章や研修会のレポートを見てみると、表現力や語彙力の低さを感じる。小さい時に感想文を書く経験をしていた方が、社会に出た時に役に立つのではないかと感じた。」

**委員** 「学校で読書活動を推進していく中で、家庭・親子の関わりの中での読書活動が少ないのかなと感じていた。そういった意味で、事業報告であげていただいた事業は、家庭に読書を広げるいい機会になるのではないかと感じた。また、学校支援・授業支援については、より活用させていただきたいとあらためて思った。小中学校には、学校司書が配置されていないので、学校支援地域本部事業で地域のボランティアの方々に本の修理の仕方などについてはお願いしているが、図書室のレイアウトや本の紹介・展示の仕方など、学校図書館の刷新の方にもご協力いただきたいと感じたところ。ブックトークも前任地で大変いいことだと思って見てきたが、長井市でも行っていると初めて知った。引き続き広めていただきたい。団体貸出も授業等で大変役に立っていると聞いている。今後もよろしくお願ひしたい。」

## (2) 令和元年度事業計画等について

- ・内容は資料のとおり

館長及び副館長より、令和元年度事業計画について説明。また、事務局より、令和元年度運営計画及び令和元年度予算について説明の後、質疑に入る。

**委員長** 「現在、ボランティアの方々にはどういった活動をしてもらっているのか。」

**副館長** 「“ぶち”さんという団体に常時協力いただいている、毎月のお話会や三か月検診、お楽しみ会などご協力いただいている。他にも、週1回位のペースで、図書修理や書棚の整理にご協力いただいている二名がいる。グループではなく、それぞれ図書館とつながっていて、ご協力いただいている。」

**委員長** 「サポーターとはどういう方なのか。」

**館長** 「図書館でお願いした補助業務を行うのがボランティアなのに対して、サポータ

一は主体的に図書館のことを学び、研修会をしたり、行政と話し合い意見要望を出したり、イベントに積極的に参加したり企画したり、より積極的な活動をしている方々のことをいう。」

**委員長** 「現在長井市立図書館にはいるのか。」

**館長** 「今はいない。一緒にスクラムを組んで、図書館を盛り上げてくださる一般の市民の方がいらっしやれば、図書館は生き生きすると思う。」

**委員** 「現に、サポーターが活躍している図書館は近隣にあるのか。募集はしているのか。」

**館長** 「積極的にはしていない。」

**副館長** 「サポーターがいる図書館には、常時活動可能なサポーターのための部屋がある。常に活動希望の方が集まり、自主的に意見を出し合って、図書館に提案をできるような部屋があると活動しやすいのかなと。」

**委員** 「参加しようと思っても、何をしたらいいかわからないと参加できないと思う。募集するのであれば、まずサポーターに求める役割をはっきり示すべきだと思う。難しいことだとは思いますが、まずはサポーターとはどういうものなのか、概念を図書館側から出すことも大事なのかなと。また、今年度の主な目標と施策において、『市民の意見をより強く反映できるような協議会の運営』とあるが、市民の意見を拾うようなアンケート等を行っているのか。」

**副館長** 「アンケートは館内に常設で置いてはいるが、なかなか集まらない。イベント毎のアンケートは毎回とっているが。」

**委員** 「アンケートの集計結果をこういう場で説明していただいてもいいのかも。その結果を受けて、委員としてリアクション出来る部分もある。」

**委員長** 「新しい図書館は令和5年度に完成する見通しということでもいいのか。」

**事務局** 「令和5年度までには完成を目指している。」

**委員** 「新図書館の建設は、サポーターを募集する良いきっかけになるのではないかと

思う。米沢市立図書館も新しくなったが、行ってみると気分が楽しくなる。新しくつくるものに自分達の意見を反映できるということは、サポーターを立ち上げるいい機会になるのではないか。」

**委員長** 「一般の方々の意見は新図書館整備に反映されないのか。」

**事務局** 「整備に関しては、一般の方々を含めた市民検討委員会でご意見をいただき、計画にその内容が反映されている。ホームページにも掲載している。」

**委員長** 「最近、不慮の地震等が起きることが多い。災害が起きた場合に、利用者をどう避難させるか図書館の中ではどう共通理解をしているか。」

**副館長** 「避難訓練は、主に地震・火事を想定して、毎年行っている。3階は自由に出入りできるので、3階を利用するにはカウンターで受付を行い、常に何人利用しているのか把握するようにしている。また、午後7時まで開館はしているものの、シフトの都合上5時以降は職員が減るので、管理上、使用は遠慮してもらっている。これは東日本大震災以降、改善した点。」

**委員** 「致芳コミセンも併設されている致芳児童センターで勤務している際に、幼児・児童・生徒だけでなく、コミセンに訪れる地域の方々もいなほ号を利用できればいいなと感じていた。いなほ号の来訪については一般の方にお知らせしているのか。」

**副館長** 「いなほ号は誰でも借りることができるが、来訪日の周知については特に行っていない。コミセンに来訪日を掲示することでより利用していただけるのであれば、検討したい。」

**委員** 「伊佐沢コミセンの場合は伊佐沢児童センターが離れているし、小学校も一般の利用はなかなか難しい。コミセンをいなほ号の貸出場所として利用するのは問題無いので、派遣先について検討いただければ有難い。」

**副館長** 「伊佐沢学童には行っているが、コミセンとの位置関係はどうか。その際、来訪をコミセン館内に掲示する等、方法を会議の折にでも相談したい。」

**館長** 「なお、いなほ号については、現在子供を対象とした巡回先が多いため、子供向けの本を多く積載している。そこに大人を対象とした施設関係からも依頼があったため、大人向けの本については、選書をして箱に入れて持って行っている。その体制はもうしば

らく続けるべきだと考えている。なお、これは私の考えだが、これから建設される新図書館については、子育て支援施設と併設されることも有り、ある程度子育て世代に重点的にサービスを行うべきだと考えている。屋内遊戯施設のすぐ近くに絵本の充実した図書室をつくることで、遊ぶことを目的に来た子供も絵本に触れることが出来、相乗効果が狙える。今まで図書館に来なかった子供も図書館に来るようになり、大人も来るようになる。そういうつくりをしてほしいし、絵本の充実にも努めていきたい。もしそうなれば、例えば幼稚園や保育園のカリキュラムの中に『図書館に遊びに行ってお絵本を借りよう』という時間をつくって、図書館に足を運んでもらうことは可能になるか。」

**委員** 「図書館の方から、図書館に足を運んでもらうようなカリキュラムを市内の保育施設に提案していただければ。」

**館長** 「そうすると、平日の図書館にも賑わいが出て、いなほ号として出向く必要がなくなる。高齢者・大人向けのサービスも展開できるのかなと。」

**委員** 「伊佐沢コミセンには、伊佐沢中学校や伊佐沢小学校改築時のものなど沢山の蔵書があるが、整理をする人が誰もいなくて困っている。十数年使っていないものは捨てようかなと思っているが、こういったものの査定はしていただけるのか。」

**副館長** 「以前引っ越しされる時にを見せていただいた経過はあるが、再度見せていただければ図書館の蔵書に出来る郷土資料は引き取らせていただきたい。」

**委員** 「相談してみる。」

**委員長** 「いなほ号は迎え入れる側の意識も大事になってくる。掲示を工夫したり、行事の中に組み入れたり。沢山アドバイスをいただき感謝したい。」